北海道オープンデータ官民ラウンドテーブル　議事録（未定稿）

要望①　生活保護の相談窓口、無料低額診療一覧データ等について

日時：2021年（令和３年）12月21日（火）13:10～

場所：本庁舎５階　次世代社会戦略局打合せ室（zoom会議）

【北海道ＤＸ推進課　喜多係長】

　本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。ただ今より、令和３年度北海道オープンデータ官民ラウンドテーブルを開催させていただきます。

　事務局のＤＸ推進課喜多です。開会にあたり、まずはＤＸ推進課課長の榎から、ご挨拶させていただきたいと思います。

【北海道ＤＸ推進課　榎課長】

　北海道ＤＸ推進課長の榎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。北海道の方では、平成27年からオープンデータの取組を推進しているところですが、なかなか利用しやすいデータはまだまだ少ない状況にございます。そういったところを踏まえて、民間のニーズを的確に捉え、積極的なデータの利活用を促進するために、民間の方々と北海道との対話の場として、本ラウンドテーブルを昨年から引き続き、今年も開催することといたしました。

　本日は３つの要望につきまして、民間の皆様からの要望についてプレゼンテーションをしていただきまして、北海道の方のデータ所管課、こちらと議論しながらデータの公開につなげていければと考えております。

なお、本日の開催内容や結果につきましては、ホームページや北海道オープンデータポータルでオープンデータとして公表されますので、ご承知おきください。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【北海道ＤＸ推進課　喜多係長】

　それでは、本日の進行について、若干説明させていただきます。本日は要望が３件あって、１件ずつディスカッションしていきます。まず、データの要望をされた方からどのようにデータを活用するのかというところをプレゼンテーションしていただいて、その後道のデータ所管課からデータについて説明させていただきたいと思います。その後、データ公開についての質疑、検討などを行います。

　１件、プレゼン10分くらいと、質疑30分の合計40分くらいを予定していますが、少し早めに終わる場合もあるかと思いますがご了承ください。

　それでは、続いて、ファシリテーターをご紹介させていただきます。ファシリテーターは内閣官房のオープンデータ伝道師及び総務省地域情報化アドバイザーの山形巧哉さんです。よろしくお願いします。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　よろしくお願いします。本日はよろしくお願いします。

【北海道ＤＸ推進課　喜多係長】

　それではここから、ファシリテーターの山形さんに司会をお任せしますので、よろしくお願いします。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　はい。そうしましたら、私の方から少し司会をさせていただきたいと思っております。まず１件目の要望としましては、要望内容が、生活保護の相談窓口・無料低額診療一覧データ等についてということで、要望者はＮＰＯ法人コミュニティワーク研究実践センター事業主任の佐渡様から、まずプレゼンをいただきまして、その後、担当課である保健福祉部福祉局地域福祉課の方から、一緒に議論をしていければなと思っておりますので、佐渡様どうぞよろしくお願いします。

【北海道ＤＸ推進課　喜多係長】

　先ほど地域福祉課と言っていたんですけれど、色々地域福祉課とお話ししている最中に、事前に佐渡さんからの要望をお伝えしたところ、まずは地域福祉課の方で、佐渡さんたちから出ていた、とりあえず、という３件のデータがあったんですけれども、それについてはＰＤＦからすでにＥｘｃｅｌで公開されているということ。そして、佐渡さんたちが、申請、提出するためのまとめの時間がなかったという事情があって、これまでの間、プレゼンの中でも多分色々と、ほしいデータとか、出してほしいデータをまとめられてはいると思うのですが、それについては私たちＤＸ推進課の方でお聞きして、多分多岐に渡ると思いますので、再度それぞれの担当課に振っていきたいと思っています。まずは、ＤＸ推進課の方で、佐渡さんたちの要望を聞きたいと思っています。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　了解しました。それでは、そういうような状況となりましたので、佐渡様の方からプレゼンの方していただければと思いますので、よろしくお願いします。

【ＮＰＯ法人コミュニティワーク　佐渡氏】

　コミュニティワーク研究実践センターの佐渡と申します。よろしくお願いします。私たちの法人の方で、厚生労働省からいただいた事業の中で、生活困窮者支援事業を実施している団体とか自治体の後方支援をする、支援者支援をするというプロジェクトを実施しています。その実施しているプロジェクトの中で、ＬＩＮＥのチャットボットの機能を使って各地域の支援情報、どこに相談すれば良いのかという窓口情報を、ＬＩＮＥで、自動で検索できるシステムというのを作っております。その担当が、今一緒に入っていただいているＣＲ－ＡＳＳＩＳＴの四井さんになるので、今回一緒に参加させていただいております。よろしくお願いします。

　具体的なデータの説明については四井さんからという形になるんですけれど、よろしいでしょうか。

【ＣＲ－ＡＳＳＩＳＴ　四井氏】

　事前に送らせていただいている資料をもとにお話しさせていただきます。画面を共有します。北海道支援情報ナビということで、今年度コミュニティワークさんの方で厚労省のお金を使って各地の支援情報っていうのを集めてそれをＬＩＮＥボットで流していこうというような取組をしています。相談支援ナビゲーションということで、静岡県で試験的に実施されているものをちょっとカスタマイズしてっていう形でやり始めたんですけれど、札幌の支援者さん真面目な方が多くて、本当に多岐にわたる支援内容というのをメニュー化して、ゴールとして相談窓口にたどり着けるようにしていこうと。悩みを持っている人だったり、ちょっと困難を抱えている人だったり、お金に困っている人、仕事に困っている人みたいなのをターゲットにして適切な相談窓口に誘導するためのボットを作るというような形で動いています。

　ゴールは、地域別の相談支援機関ということで、最寄りの相談支援機関にスムーズにたどり着けるようにしたいというところと、公的な支援制度を網羅するのは当然なんですけれど、民間の支援団体というところもきっちりネットワークしてリスト化していくということを意識してやっていきました。

　実際に北海道支援情報ナビっていうＬＩＮＥのボットを、このＱＲコードでだいたいデモとかご覧いただけるようになっているんですけれども、お金のこと、仕事のこと、家族関係のこと、心と体、緊急、困りごとみたいな感じでメニューを作って動かしています。実際はちょっとスマホで触るとメニューが下から出てくるんですけれど、ちょっとこれパソコン側なので、こういう形で出てくるんですけど、例えばこれ、お金に困っていますよというときに、色んなケースをたどっていって、これを雇用失業給付を受けたいですっていう場合に、こうやってクリックすると、サイトに飛ぶというような形で。

例えばこういう子育て情報に飛んだりとかというような形を想定しているんですけれど、こういうＰＤＦに飛ぶ場合であったりとかっていうのが色々あって、じゃあ実際に飛び先っていうのを色々考えていったときに、北海道道庁のページの中に飛んだりとか、厚労省のページに飛んだりとか、色んなゴールがあるんです。そして、ＬＩＮＥボットに今登録しているページをこうやって抜き出していっただけでもすごい数で、ほとんどは厚労省に飛んだりとか、これは北海道のページに飛ぶものだったり、札幌市さんに飛ぶものがあったりとか、色んなパターンがあると。

例えば生活保護の方だと、こんな感じのページがあるんですけれど、例えば町村部だと、そもそもテーブルが各ページがユニークな形になっていたりとか、さっきの無料低額診療のページなんかだと、ＥｘｃｅｌとかＰＤＦで公開されているんだけれども、本当に北海道の、道庁のページのＣＭＳにポンと、普通にファイルが置かれているだけなので、ファイルを更新するとＵＲＬが変わってしまうみたいな問題を抱えていたり、この生活保護のところだと、本当に自由な書式のテーブルがあって、参照しづらかったりとか、実際に町村にお住まいの方というところで、振興局の福祉事務所が案内されるわけなんですけれど、身近な役場とかという福祉の担当窓口にまず相談しに行くみたいな、そういうケースがあまり想定されていないというような、そしてデータもページもちょっとおかしくなっているというようなことが色々起きて、じゃあどこにボットのゴールとして適切にリンクを指定してやれば良いのかよく分からないというような状況が起きています。

　ちょっと書かせてもらっているように、こういう問題が起きていて、理想的なのは、恒久的ないわゆる変更されることがないＵＲＬに、いろんな機関とか制度別で、窓口別で、統一フォーマット、ＣＳＶとして提供されているっていうことが、まず、最低限整備していただきたいというような内容になっています。そして、その整備していただいたＣＳＶをもとにして、ＨＴＭＬ等で自動変換したようなものを、ＬＩＮＥボットからのゴールの先として、設定するというようなことをすることによって、常に最新の、かつ、リンク切れにならないような仕組みが作れるのではないかなというふうに考えています。

　具体的に、こっちのオープンデータポータルに載っているデータをＣＳＶ読み込んで、そのまま表として表示するような機能を後方支援プロジェクトっていうもののページに作って、ＬＩＮＥからのゴールとしてこういうページに飛ばしながら、必要に応じてＬＩＮＥとブラウザを行き来するみたいな、そういうボタンなんかもちょっと付けながら、回していければというふうに考えています。ひとまず説明は以上になります。

　具体的にどういうデータかっていうのは、Ｅｘｃｅｌでまた別途一覧でお送りしているので、それを見ながら議論できればなと思っています。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　ありがとうございます。Ｅｘｃｅｌのデータのところについては、展開というか、確認することはできますか。

【ＮＰＯ法人コミュニティワーク　佐渡氏】

　私が開きます。

【ＣＲ－ＡＳＳＩＳＴ　四井氏】

　お願いします。

【ＮＰＯ法人コミュニティワーク　佐渡氏】

　チャットの方にも投げましたけれども、こちらがＥｘｃｅｌの資料です。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　私の方でも、自身の端末の方でも開きますので、少々お待ちください。

　これが今シートが１、２と、タイトル補足っていうのがございまして、ここが必要なデータとして北海道様の方からいただければというような話という感じですね。

【ＣＲ－ＡＳＳＩＳＴ　四井氏】

　そうですね。シート１はちょっと順番に必要そうな機関をリストアップしたもので、ちょっとあの先にＬＩＮＥボットの方のデータ作りを優先させていた関係上、ＬＩＮＥボットのデータからゴールと設定されているＵＲＬをがーっと抜き出してちょっと機関別で分類したのがタイトル、シート２の違いについては佐渡さんしか分からないはずなんですけれど、基本は同じものだと思っています。

【ＮＰＯ法人コミュニティワーク　佐渡氏】

　タイトルタグが見つかりませんとなっているので、これ押さないと全部分からないんですよね。ＰＤＦから出たものなので、何のデータなのかというのが、ちょっと分からなかったので、単純にここにタイトルを入れいっただけです。基本的には一緒です。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　けっこう多岐にわたっているということと、タイトル補足の中の北海道って書いている部分が該当ページになっていますと。で、このファイルを見る限りだと、ゴールの部分については、全てＨＴＭＬっていう形になっているものと、多分ＰＤＦになっているのかな。

【ＣＲ－ＡＳＳＩＳＴ　四井氏】

　ＰＤＦもいくつかあります。あと、厚労省のページに全国の一覧が載っているんだけれど、それが最新か分からないっていう部分と、それが北海道の分だけ抜き出して、使う人が見つけやすい形でこうマッピングしてあげ直した方がいいだろうというのがたくさんあるかなと認識をしています。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　はい。今これ厚労省から開かれたものですね。そこの部分になってくると、データの依頼先っているのが話が錯綜しがちになってしまいますので、今回はちょっと北海道の部分だけを中心に考えていきたいかなとは思うんですけれども、例えば今、タイトル補足というところの３５行目の、犯罪の被害に遭われた方へというページを見ているんですけれども、ここについては、ここのページに飛ぶことがきっとゴールかなと思うんですけれど、ここの何がほしいとかっていうような具体的なものがあったりとかするんですか。それとも、先ほどおっしゃっていたように、特定のＵＲＬを全ページに持たせて、意図しているところが本当に広い感じだったので、多分担当の方々だとか、ひいてはＷＥＢ担当の方々に、これから先のＷＥＢサイトの作り方ってどうなのっていう話もしていかなければならない分野になってきますので、ちょっと今回は、ゴールを、どういう部署にどういう話をして、どうあるべきかっていうちゃんとしたゴールを定めておかないと、話が発散しがちになってしまうかなっていうのが私が思っていまして、例えばこの北海道警察のページだったら、どういう風になっていると望ましいとかって考えられていますか。

【ＣＲ－ＡＳＳＩＳＴ　四井氏】

　さっきリンク一覧していた次のページですね、公的なものと民間のものと入り交じっているんですけれども、なになに被害相談室のどこどこみたいなもので電話番号と営業時間みたいなものが記載されていると。こういうのがやはりＣＳＶみたいな形で、データとして一覧されていると望ましいかなという風には思います。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　なるほど。

【ＣＲ－ＡＳＳＩＳＴ　四井氏】

　各役所の窓口というのものも当然あるんですけれど、各部局が必要だと思って集めている支援情報の一覧。例えば子ども食堂に一覧ページも北海道庁作られていたりするので。こういったページができるだけ機械判読可能な形式で乗っかってくるというのが望ましいかなと思います。それで、お渡ししているＥｘｃｅｌの一覧表のゴールに設定しているところは、連絡先一覧ページにリンクしているものもあるんですけれど、一方で制度の説明であるとか、そういったページに飛ばしているものもあって、制度の説明ページって、本来は、制度が変わらない限りはＵＲＬ変わらないでほしいんですけれど、部局の再編とかでどんどんあちこち行っちゃうっていう。その辺りが、課題としては別々になってきますけど、とりあえず今回は相談機関一覧ページっていうところをＣＳＶ化、オープンデータの方にも同じように載せていくっていうところを統一してやっていただけると良いかなと。そこのデータ項目の精査っていうのがこちら側の都合もあるんですけれど、まだ十分にはできていなくて、先ほどのＬＩＮＥボットのページも４，５人の担当者で分野別に分けてがーっとリストアップしてもらったので、ゴールのページまでちょっとまだ精査できていないというのが正直なところです。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　結構面白いアプローチの仕方だなとは思っていまして、ここ数年前の話には当然なるんですけれども、つい先日私役所退職してしまったので、もう我々っていう形ではないんですけれど、行政のオープンデータを進めていく中で、何でも良いからとりあえず出しなよ、そうすると何かが起きるかもしれないからみたいな感じで、オープンデータって、実は昔々、もう今から１０年弱くらい前に進んでいったっていうことがあったんですが、でも、実際にちゃんと使われたりだとか、ある程度ターゲットを絞らないときついよねっていう風になってきて、さらにデータの質を上げていきましょうよっていう風になったのが、ここ最近だったんですよ。

そうしたら、今また、何でも良いから出してくれっていうアプローチのものがポンと出てきたっていうのは面白いなと思っていまして、とにかく今の議論というのは、ホームページのそもそもの在り方を考え直してくれっていうところを、僕は照査になるんじゃないかなと思っていまして、元々僕もオープンデータとかっていうのは、手間をたくさんかけるものではなくて、ＷＥＢページのフォーマットを行政はしっかり定めて、そこの中で、例えばワードプレスなのか分からないですけど、何かを作って、職員はそこにちゃんとした形で載せると、例えば表に入れたものについては、ちゃんとＣＳＶ化とか、ＪＳＯＮ化されていくだとか、そういう姿がきっと望ましいんじゃないかなっていう、まさしく、おっしゃっていたように、私もそういう思想を持っていたものですから、たしかにそうですよねって思う反面、今この議論は相当敷居が高いなと思っている反面ですね。

かなり、おっしゃることはもう本当によく分かりますという感じですけど、ＤＸ推進課様の方でも、ここについてはかなり大変な部分かなという風にも思いますので、まずは今回については、正直お話はまず伺いましたと。これから先の部分については、方針含めてＤＸ推進課様含めて、もしかしたらこれ本当に、ＤＸ推進課様というよりも、日本全体が考えなきゃならない一個の問題なのかもしれませんので。このＷＥＢサイトを政府が持つ情報だとか、そういうものについては、日本全体で、そのデータの利活用を進めていこうっていう風に考えなければならないポイントなのかもしれませんので、まずもって、急ぎで知りたい情報っていうのを、改めてちょっと今回を機に、もう少し我々と議論させていただいて、言ってもまず本当にここが欲しいよねっていう具体を出していただいた方が、担当の方々に話がしやすいかなと。でも、思想としては、こういう大きな枠として何でも情報としてあるものは欲しいんだ、しかもきれいな形でっていう要望がちゃんと出たっていうのはこれはもう事実ですので、それをもとに、多分ＤＸ推進課様がうまいことやってくれるんじゃないかなと思うんですけれど、いかがなんでしょうか。

【北海道ＤＸ推進課　喜多係長】

　はい。今、山形さん言われた通りなので、まず今回の要望に関しては、四井さんたちの方で、先ほど山形さん言われたように、具体的にこのページの、例えば表、先ほどの振興局一覧とか、保健所一覧とか、ＣＳＶにしてポータルサイトに載せてくださいと。要は、具体的なデータ名と、そのもとになるページみたいなものを具体的に私たちの方にまず示していただくと、私たちが担当の方に一番話がしやすいんですよね。また、それとは別に、今山形さんが言われたように、全体、それこそ道庁のＷＥＢサイト全体に関して、今すでに北海道のホームページに掲載されている表とかＰＤＦだったりとか、そういうのをＣＳＶにするというのを、今全庁に対してやってくださいというのをやろうとしているところなので、それを今準備中ですので、時期は言えないんだけど、準備中です。ですので、四井さんたちがもしかしたら今、言っていないところで幅広くみたいなところは、そちらの方でカバーできる可能性はあるので、まずは四井さんたちが今本当にＬＩＮＥボットで必要なところのゴールに行くデータを、具体的に示していただくと、私たちも仕事がしやすくなりますので、まずそれをやっていただけると助かります。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　そうですね。本当に再三何度も申し上げますけれども、おっしゃっていることはまさしくなので、ただ現実問題、そういうプラットフォームがしっかりまだ整備されているわけでもございませんし、人間の手を介在してやっぱり作らなければならないっていう事実もありますので、ここを含めるともう少し粒度を細かくして、この辺のデータをこう欲しいみたいな感じで言っていただけると、担当はすごく喜んでくれるというか、そうですよね、これくらいだったらいけます、みたいな感じで言ってくれるかなと思いますので。

【ＣＲ－ＡＳＳＩＳＴ　四井氏】

　はい。よくよく分かっている話なので、ある程度一覧表をこちらで作って、それのちょっと穴埋めしてもらうのをお願いするのと同時に、穴埋めされて正式版、オーソライズされたものをオープンデータとして上がっていくという流れを１個ずつ順番にやっていければと。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　良い流れだなと僕は思っていまして、北海道でもこういう流れが来たんだなっていうのが、ちょっとお金をかけるかけないの問題はあるのかもしれないんですけれど、ちょっと官と民がやはり、必要なデータがこれだから、官の方でこうやって作ってくれよっていう要望もちゃんと出しながら、官もそれにちゃんとこれに応えていくっていう形っていうのはすごく美しい形だと。

私も今、シビックテックっていう分野にもちょっといるんですけれども、シビックテック的な考え方からしても、これから先の共創の社会っていう考え方からしたらすごく良いのかなっていう風に思いますので、ぜひ、北海道様の方につきましても、コミュニティワーク様の方から来た情報というのは率先してデータ化していただいて、掲載していただくということをやっていただければなという風に思いました。

　他に何か、佐渡様、四井様の方でこれだけは言っておきたいというようなことはありましたら、ここでお伺いしておきますけれども。

【ＣＲ－ＡＳＳＩＳＴ　四井様】

　そうですね。北海道のＵＲＬのページがころころ変わる問題。非常に頭が痛いので。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　分かります。それは。

【ＣＲ－ＡＳＳＩＳＴ　四井氏】

　去年のコロナの制度一覧みたいなものをきれいにまとめていたんだけれど、データを更新する度にＵＲＬが変わっていくっていうことがあったので、本当にＵＲＬを変えないっていうのとページの中セマンティックにしてよねっていう、見た目だけじゃないし。

あと目の見えない方とか多分ぐちゃぐちゃだと思うんですよね。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　そうですよね。セマンティックウェブの在り方って、けっこう前から話はされていますけれど、なかなかやはり人間の目で普通に見ている世界っていうか、多数派が見ている世界が全てっていうところにどうしても、ウェブの世界もいがちなので、その辺は考え方改めて、ワンソースで色んなものをちゃんと色んな方々に提供できるような世界は作っていかなければならないっていう感じはしますよね。

【ＣＲ－ＡＳＳＩＳＴ　四井氏】

　一定のアクセシビリティ標準に基づいて多分業者が作っていたり、最初の状況はきっときれいになっているはずなんですけれど、そこからの担当課がまたどんどん手を加えていって、数年もするともういても読めないようなページになってしまうという状況になっているので、職員の教育もきっちりすることで、ＤＸ推進課さんの手間が減るっていう、結果的に。なので、そういうのが望ましいでしょうね。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　分かりました。ありがとうございます。ＤＸ推進課様喜多さんの方では何かございませんでしょうか。

【北海道ＤＸ推進課　喜多係長】

　とりあえず、先ほど言った四井さんたちがまとめるっていうのを私たちがまずまとめるというのを待たせていただいて、四井さんたちの一覧がまとまって私たちの方に提出されれば、そこから原課、担当課の方にお話をして、ＣＳＶファイルにしてください、ポータルサイトに載せてくださいという話をしていきますので、まずは四井さん、佐渡さんたちの準備ができてから動きます。そういう順番でどうですか。

【ＣＲ－ＡＳＳＩＳＴ　四井氏】

　これって、五月雨、あまり五月雨にするつもりもないですけれど、とりあえず５つ出して、その１，２週間後にあと３つお願いしますみたいなやり方でも大丈夫ですか。

【北海道ＤＸ推進課　喜多係長】

　構いません。大丈夫です。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　佐渡さんはどうですか。

【ＮＰＯ法人コミュニティワーク　佐渡氏】

　私は先ほど、山形さんがおっしゃっていただいたように、今回のデータの要望っていうのは、本来全国的に、全部の自治体で同じようなことができていれば、同じ仕組みで検索をしていける仕組みっていうのが簡単にできるようになるのかなって思うんですよね。

　本来、国全体でやってもらうべきことなのかもしれないですけど、一方でどこでそれがどう使われるかっていうのが分からない中で、それを全部のところでやっていくっていうよりは、きっと今回みたいに、具体的にこういう問題がって、支援員の人も使ってもらえるんですけど、相談者さんが自分で必要なデータにすぐにアクセスできるっていうのが、例えば北海道の中で、こういう変更をしても、恒久的に情報が更新される仕組みっていうのが出来たとすれば、それをもとにもちろんこちら側の仕組み自体もすごく改良しなければならないっていう点はあると思うんですけれど、全国的な動きになっていければ良いなと思っているところです。

【地域情報化アドバイザー　山形氏】

　そうですね。おかげさまで私も今、実は喜多さんからもご紹介ありました通り、オープンデータ伝道師っていう、オープンデータを普及啓発するっていう役割も担っていますので、そういう会のときにも、そういう話があったのでっていうことを各他のメンバーの方々だとか、国の機関にお話しする機会等があれば、ぜひ上げていきたいなと思いますので、これからももしかすると、北海道様だけではなくて、私たちの方からも、何らかのアクションっていうか、情報共有させてくださいとか、情報交換させてくださいっていうケースもあるかと思いますので、その際はぜひご協力いただければと思っております。ありがとうございます。

　それでは、まず１件目のＮＰＯ法人コミュニティワーク研究実践センターの案件については終了という形にさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。はい、ありがとうございました。

【北海道ＤＸ推進課　喜多係長】

　また、よろしくお願いいたします。

【ＮＰＯ法人コミュニティワーク　佐渡様】

　今日はお時間をいただきありがとうございました。

（了）